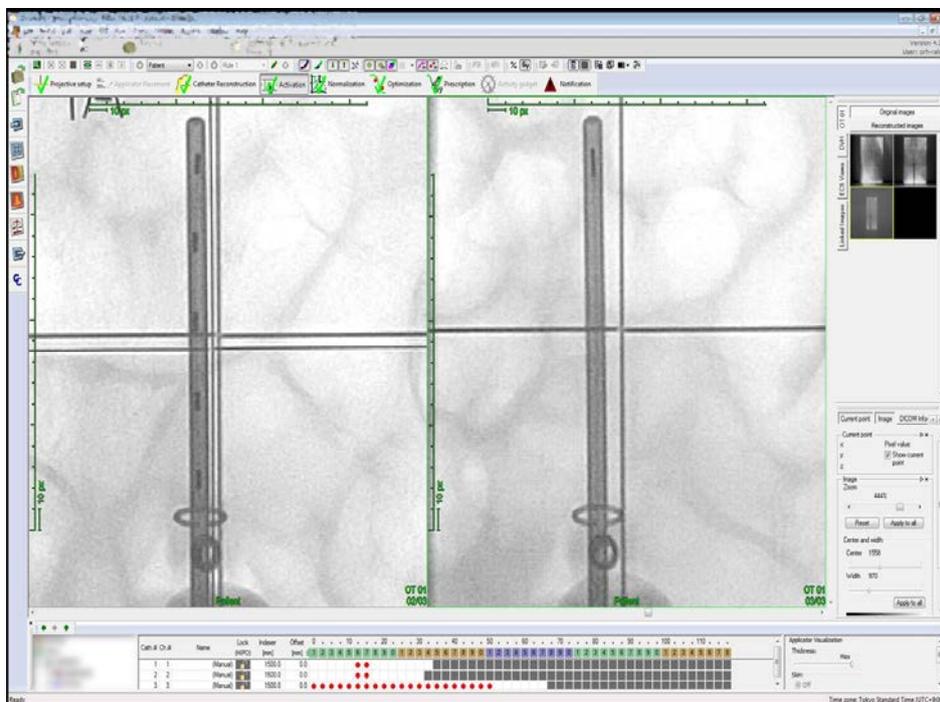


小線源治療時の実線源の位置確認

大阪労災病院 茶谷正史先生

概要：小線源治療時に、実線源の位置確認のため照射中に透視にて確認し、最終線源位置を撮影して記録として保存している（図参照）。当院では子宮頸がんの RALS に用いているほか、モールド照射や組織内照射においても線源移送チューブのつけ間違いや、移送距離の確認に有用である。なお、詳細は 2016 年度の小線源治療部会で発表したが、同年秋の放射線腫瘍学会においても当院の今井医師より発表の予定である。



カルテに添付している資料。スライド左は模擬線源、右は実線源。
最終線源位置が間違いないことを示している。